



2023年3月期決算説明資料  
〈補足説明資料〉  
東京地下鉄株式会社  
2023年5月11日

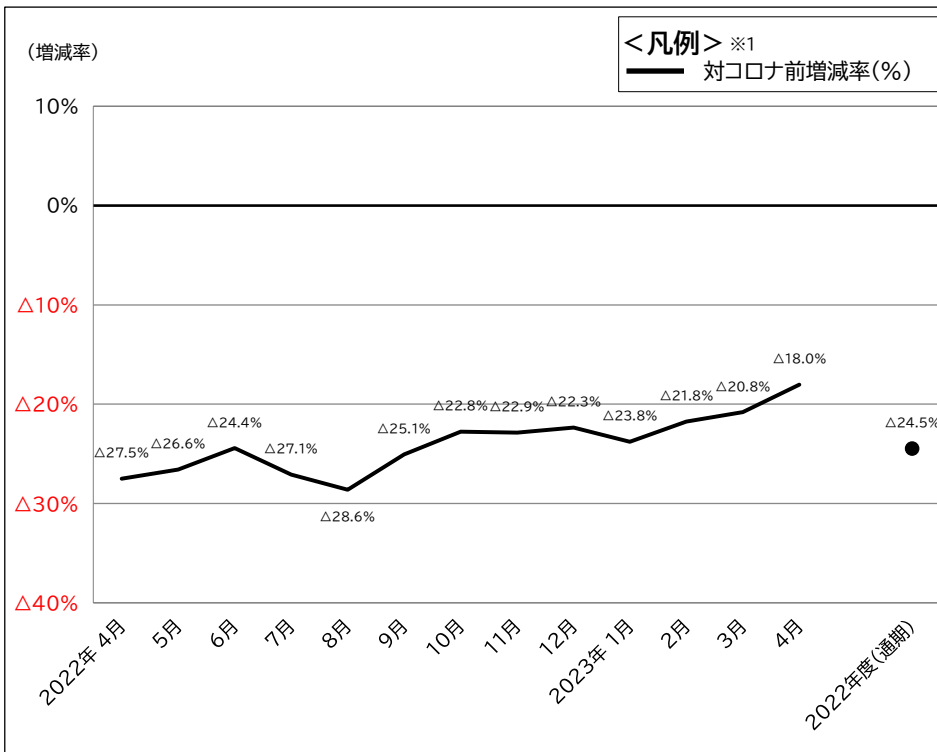
# 運輸収入トピックス①

定期・定期外合計(平日)及び定期(平日)のご利用において、  
新型コロナウイルス感染症による影響からの回復が見られました。

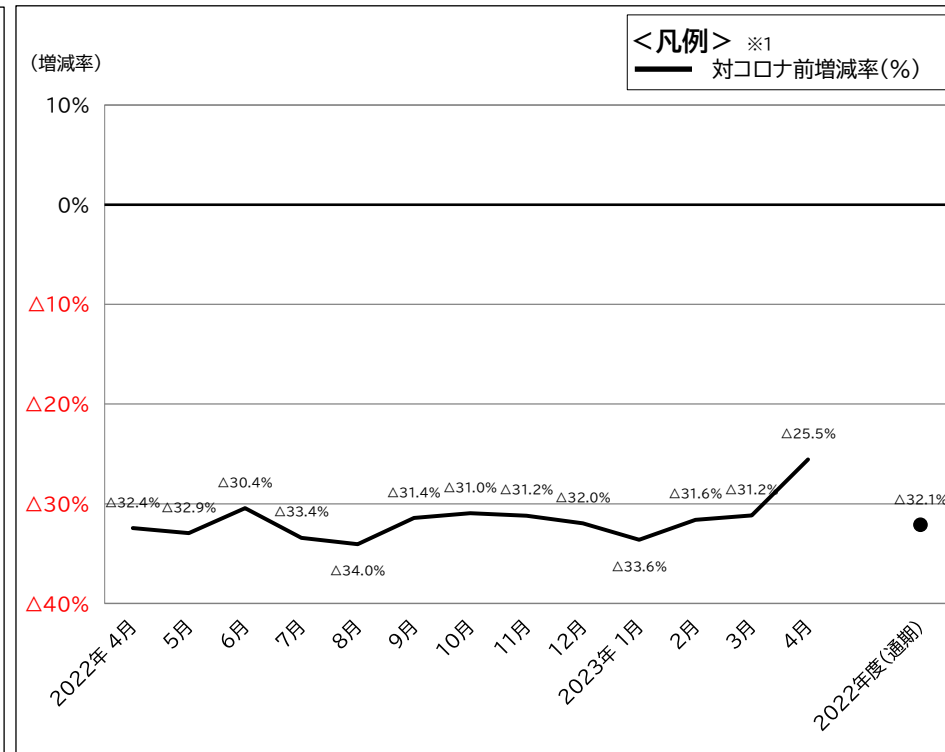
## 全線における自動改札機データ(定期・定期外合計及び定期 月別)

- 自動改札機における全駅の平日の定期・定期外合計出場枚数及び定期出場枚数は、2022年3月にまん延防止等重点措置が解除されて以降、減少幅が縮小に転じ、回復が見られました。その後7月から8月にかけて、感染者数の増加に伴い、一時的に減少幅が拡大したものの、9月以降もその回復傾向が続き、特に平日の定期出場枚数では、足元の2023年4月において顕著な回復が見られます。

平日(定期・定期外合計) 出場



平日(定期) 出場



※1 コロナ前:2019年4月～2020年1月、2019年2月～3月(2020年2月～3月はコロナの影響を受けているため比較対象を2019年2月～3月としております)

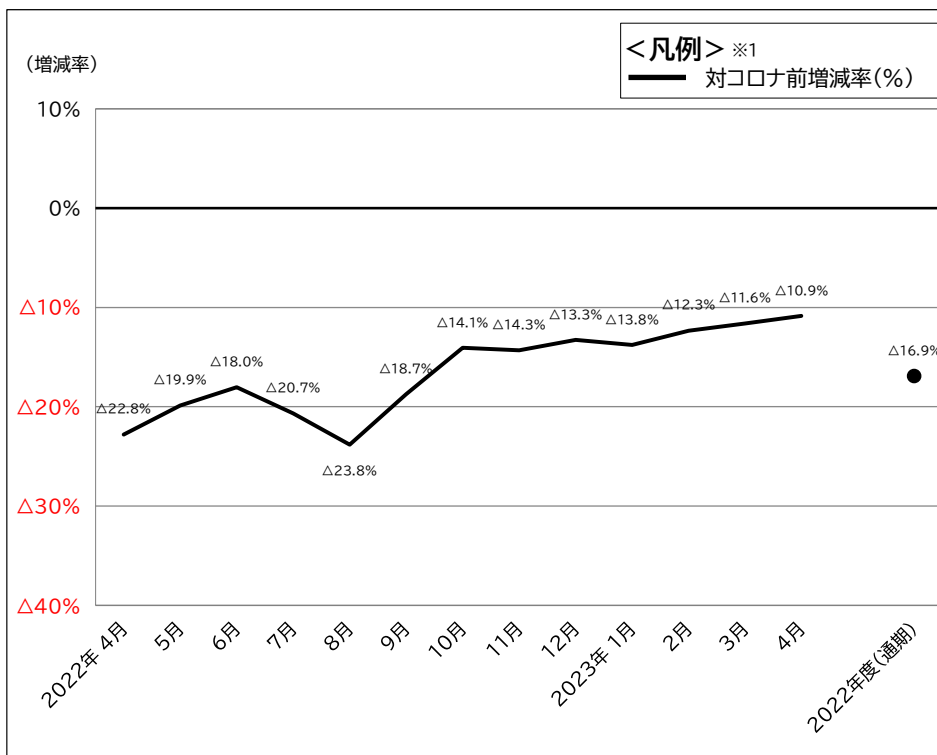
# 運輸収入トピックス②

定期外(平日及び土休日)のご利用において、  
新型コロナウイルス感染症による影響からの回復が見られました。

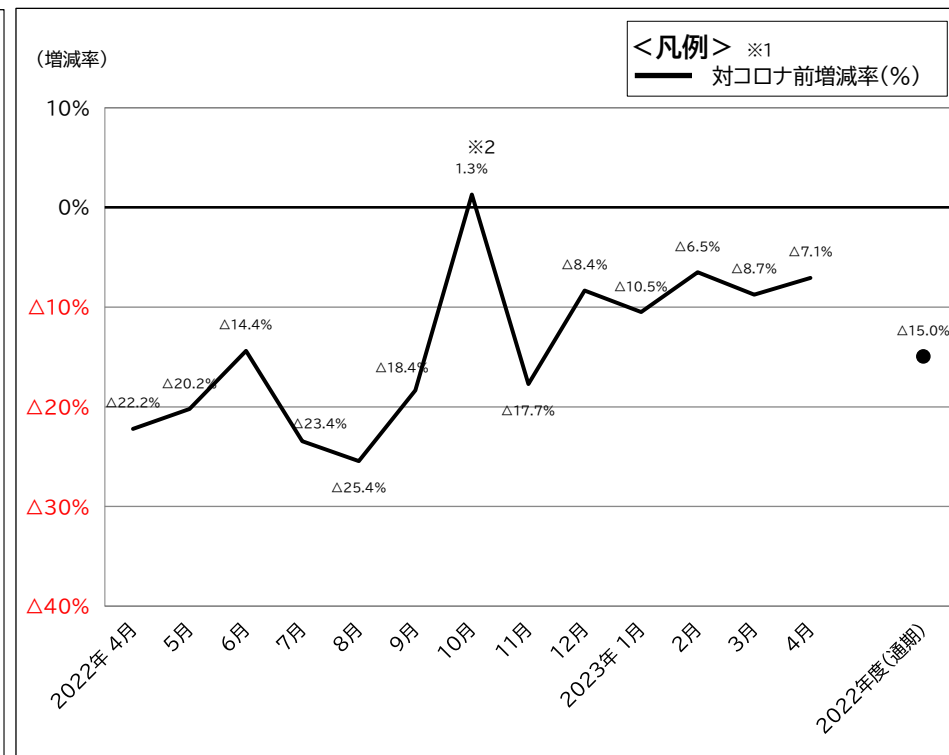
## 全線における自動改札機データ(定期外 月別)

- 平日の定期外出場枚数及び土休日の定期外出場枚数は、2022年3月にまん延防止等重点措置が解除されて以降、減少幅が縮小に転じ、回復が見られました。その後7月から8月にかけて、感染者数の増加に伴い、一時的に減少幅が拡大したものの、9月以降もその回復傾向は続き、特に土休日の定期外出場枚数では、12月以降、顕著な回復が続いております。

### 平日(定期外) 出場



### 土休日(定期外) 出場

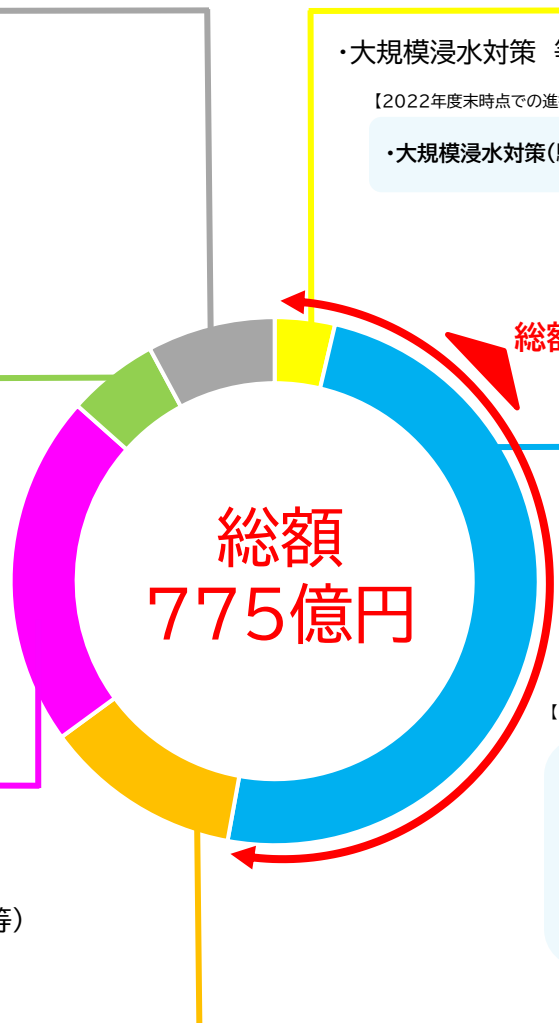


※1 コロナ前:2019年4月~2020年1月、2019年2月~3月(2020年2月~3月はコロナの影響を受けているため比較対象を2019年2月~3月としております)

※2 2019年10月12日(土)、13日(日) 台風19号による運休の影響を含む。(2022年10月 約11ポイント減少幅圧縮)

# 2022年度設備投資実績

2022年度は、安全の確保を前提とした削減を実施しつつ、安全対策をはじめとして、775億円の設備投資を実施しました。



総額の約53%を自然災害対策・安全対策に投資

## 環境対策・その他

61億円

- ・環境対策(LED照明化等)
- ・社内情報システム改良
- ・職場環境整備 等



▲丸ノ内線四ツ谷駅太陽光発電システム

## 都市・生活創造事業

32億円

- ・池袋二丁目用地開発
- ・新宿駅西口地区開発計画 等



▲池袋二丁目用地開発

## 旅客サービス

170億円

- ・バリアフリー設備整備
- ・駅のリニューアル  
(銀座線渋谷駅、日本橋駅等)
- ・駅空調設備更新 等



▲銀座線日本橋駅リニューアル後

28億円

## 自然災害対策

- ・大規模浸水対策 等

【2022年度末時点での進捗率】

- ・大規模浸水対策(駅出入口) 51%



▲大規模浸水対策工事前 ▲大規模浸水対策工事後

387億円

## 安全対策

- ・新型車両の導入
- ・ホームドア整備
- ・信号保安設備改良 等



▲半蔵門線18000系

【2022年度末時点での新型車両導入率】

- ・日比谷線 導入完了
- ・有楽町線 } 導入完了
- ・副都心線 }
- ・丸ノ内線 73%
- ・半蔵門線 57%



▲有楽町・副都心線17000系

95億円

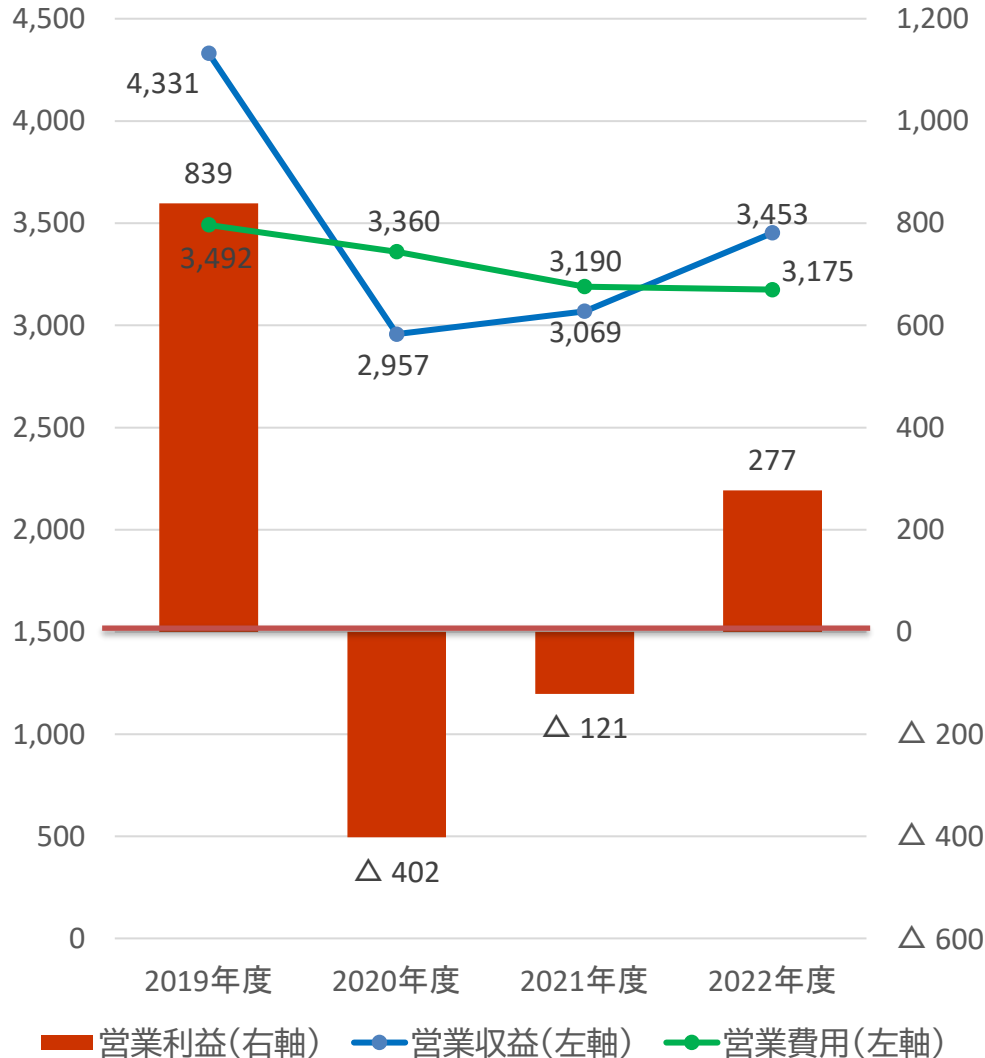
## 輸送改善

- ・東西線の輸送改善 等

# 決算の推移

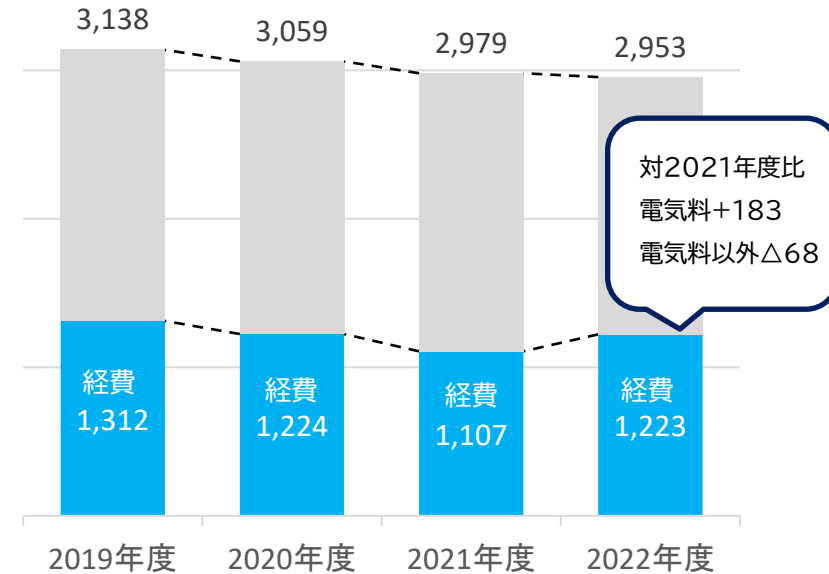
新型コロナウイルス感染症の影響から一部回復したことに伴い、旅客運輸収入等が増加し、2019年度以来の黒字となりました。

## 連結営業収益及び連結営業利益の推移(単位:億円)



## 営業費用(単体)

### 経費(鉄道事業営業費)の推移(単位:億円)



営業費用は、電気料高騰があったものの、安全の確保を前提としつつ、設備の検査や更新の優先順位や仕様、時期等を見直し、引き続き経費削減に努めました。